

## タイムマネジメント

～「まとめ」「振り返り」を確保するために～

### 授業開始・終了時刻の徹底

1単位時間内で「めあて・まとめ・振り返り」を確実に実施することは、学んだ内容の定着を図る上で、また「問い」が生まれる授業を実現する上で重要です。児童生徒が学習の価値を確認し、次の学びにつながるための「問い」を引き出すためにも「まとめ」や「振り返り」を確実に実施する「完結型」の授業が大切です。限りある1単位時間をコーディネートし、学習の効果を高めるためのタイムマネジメント力を身につけましょう。

こんな授業になっていませんか

△時間内に「まとめ」「振り返り」まで終えられない。

#### ○『コンパクトでインパクトのある』導入を

「まとめ」「振り返り」の時間が確保できていない授業の多くは、導入の時間の長さに課題があります。児童生徒が思考する時間、「まとめ」「振り返り」の時間を確保するためにも、導入の長さを適切にし、コンパクトながらも児童生徒の「問い」を引き出し、主体性を高めるインパクトのある導入を心がけましょう。そして、思考する時間を確保し、「まとめ」「振り返り」を確実に実施する「完結型」の授業を展開しましょう。

#### ○『ラスト10分の充実』を意識する

導入の長さのみならず、「展開」の内容が「大盛り」になっていることも、「まとめ」「振り返り」の時間が確保できていない要因の一つです。授業構想の段階で、まずは逆算的に「まとめ」「振り返り」の具体的な内容と時間を確保してから「導入・展開」を考えていく「ラスト10分の充実」を意識することが大切です。

#### ○タイムマネジメントにおける自分自身の課題を明確にする

事前の計画どおり授業が進行するとは限りません。児童生徒の実態をもとに、反応を予測することで、予想外の展開に対して柔軟に対応することができるようになります。また、自身の授業をビデオで記録したり、同僚の先生に授業観察をしてもらったりするなど、どの場面で想定していたよりも時間を要しているのか、客観的に自分の授業を振り返り、課題を確認しましょう。

### 簡潔な説明と的確な指示

「問い」が生まれる授業の実現に向けては、児童生徒が主体となって思考する場面を確保することが重要です。そのためにも、教師の説明や指示を分かりやすく簡潔にしていく必要があります。

こんな授業になっていませんか

△教師の長い話や説明で、児童生徒が受け身の学習姿勢になっている。

△指示が曖昧であったり、思いつきで何度も指示したりを繰り返すことがある。

#### ○教師の話や説明を簡潔にし、児童生徒が思考・表現する時間を確保する

教師の長い話や説明は児童生徒の集中力を低下させるだけでなく、児童生徒が思考・表現する時間を確保することができなくなり、学習意欲の低下につながります。

「問い」が生まれる授業を実現させるために、教師の説明の時間をできるだけ簡潔にし、思考・表現の時間を確保しましょう。

#### ○児童生徒の活動を円滑に進めるための的確で具体的な指示

曖昧で何度も繰り返される指示は児童生徒の学習を混乱させます。また、思考に集中している最中に出される指示や発問は思考の妨げになります。

「問い」が生まれる授業を目指すために、説明や指示をする場面と、児童生徒が活動する場面を明確にし、学習活動を円滑に進めるための的確な指示を心がけましょう。